

山行報告

■宝殿山・宮本武蔵頭彰碑巡り

- 日 程：10月10日(土)
- 参加者：La 森本 SLa 澤田(律) 生永 内海 小田 黒本 佐野
Lb 野村 SLb 島谷 須増 瀧原 徳本 西川 春本 福原
Lc 藤原(千) SLc 安田 砂川(延) 藤田 待場 三木(悦) 矢根
- 行動記録：JR 宝殿駅 9:00 発～山片蟠桃碑(9:10 着)9:20 発～地蔵山金剛寺(10:10 着)10:20 発～生石神社(10:45 着)11:00 発～宝殿山(11:05 着)11:20 発～観涛処(11:30 着)11:40 発～総合運動公園(12:25 着)13:00 発～宮本武蔵生誕碑(13:25 着)13:30 発～宮本武蔵生家跡(13:50 着)13:55 発～JR 宝殿駅(14:20 着)

◆宝殿山・宮本武蔵頭彰碑巡りに参加して

徳本

台風で順延になると思っていた山行ですが、急な天候の変化で予定通り土曜日に実施することになりました。朝、雨がぼつぼつ降っていたので、大丈夫かなと思いながら行きました。宝殿の駅に着くと西の空に青空が見えて晴れてきました。

宝殿の駅には、「石の宝殿浮石」と書かれた大きな岩のモニュメントがありました。「なぜ、浮石なのかな。」「石がどこかに浮いているのかな。」と不思議に思いました。少し離れたところに「山片蟠桃生誕の地神爪」の標柱がありました。このような標柱がある人物は、どんな業績を残した人なのだろうと思いました。この二つの名所旧跡が楽しみになりました。

20分ほど住宅地の中を歩くと公園がありました。この公園には、「山片蟠桃」の像が建立されていました。顔の輪郭や頭の大きさ 体格までよくわかりました。高校の日本史の教科書に必ず出てくるほど有名な人物と聞いて驚きました。山片蟠桃について調べてみたくなりました。山片蟠桃が寄進した灯籠があり高砂市のこの地の生まれであることを実感しました。

川沿いを30分ほど歩くと金剛寺というお寺に着きました。山頂石仏と五輪塔の前で写真を撮りました。八十八霊場があって、昔の人の信仰が偲ばれました。

しばらく歩くと生石神社に着きました。長い階段がありこの階段を登って行くと巨大な岩がありました。巨大な岩が池の上に浮いているようでした。なぜ浮石なのか理由が分かりました。本当は底部が岩盤から切り離されていなくて繋がったままの状態だそうです。



この浮石は、1500年前からこの場所にあるということを知り驚きました。なぜ、あるのか。この岩を何に使おうとしたのかははっきりわかっていないそうです。不思議な場所だと思いました。

生石神社を下って行くと登山道がありました。この登山道を登って行きました。左側は、危険と書いた札やロープがありました。下を見ると岩を削ったあとのようで絶壁で怖かったです。このような登山道をしばらく行くと巨大な石碑が見えてきました。石碑には、「観濤處」と彫られていました。人が小さく感じるぐらい巨大な石碑でした。驚きました。江戸時代後期に作られたそうです。当時は播磨灘がよく見えて絶景だったようです。

最後に宮本武蔵のいわれのある場所を見学しました。初めに西光寺に行きました。宮本武蔵と伊織の像 五輪乃庭がありました。次に宮本武蔵・伊織生誕地碑があるところに行きました。住宅街の中にありました。この碑は、宝殿の山から切り出した岩だと聞きました。とても巨大な碑で驚きました。

道路沿いに宮本武蔵生家田原家屋敷跡がありました。ここが、宮本武蔵の生まれた家があった場所だと改めて思いました。宮本武蔵を身近に感じることができました。

岩肌が削られた宝殿山をいつもバイパスから見て、あの山はどうなっているのかなと思っていました。宝殿山にある生石神社の少し登ったところからは姫路のお城や高御位の山々が見えました。竜山からは加古川や高砂の街並み 海や島が見えて見晴らしがよかったです。

高砂市の名所旧跡を見学して、いつもの山行とは違って歴史を感じる山行でした。とても勉強になりました。リーダーさんはじめメンバーの方々有難うございました。



【巨岩に刻まれた文字】

追記：森本

やまがたばんとう
山片蟠桃：かつめ1748年に高砂市神爪で生まれ、高校の教科書に出てくる日本史上の大人物。

13歳で大坂の両替商の升屋山片家の養子となり、傾いていた経営を繁栄させた。天文学の先駆者でもあった。著書に天文・経済・社会に至る百科全書「ゆめのしろ夢の代」12巻を残している。伊能忠敬とも親交があったかも知れない。大阪府では国際文化賞の「山片蟠桃賞」もある。

地藏山金剛寺：山腹に八十八カ所霊場があり、山頂に阿弥陀三尊の石仏と五輪の塔がある。阿弥陀三尊は阿弥陀如来を中尊とし、向かって右（左脇侍）に観音菩薩、左に勢至菩薩を配する。五輪の塔は上から空輪・風輪・火輪・水輪・地輪で、宮本武蔵の五輪書の由来である。オリンピックの五輪もここから取られている。

おおしこ
生石神社（石の宝殿）：日本三奇（宮城県御釜神社の神竈、宮崎県霧島東神社の天逆鉾）のひとつ。465トンの浮石は、713年編纂の播磨風土記にも記載されている。飛鳥時代に蘇我氏と争った物部守屋が造ったとも言われている。周辺の竜山石は仁徳天皇陵の石棺にも使われ、100カ所以上の碎石遺跡と共に2014年に国指定の史跡になっている。

観涛処：縦 4.2m、横 11mの巨石。江戸時代姫路藩で活躍した儒学者で書家が若年で死去し、父の悲しみを知った家老の河合寸翁が藩主の許可を得て、藩主が「眺望絶佳の地」と称賛したこの地に刻んだ。この付近の竜山石から御着の天川に掛かっていた旧山陽道のアーチ状の石橋も造られた。

宮本武蔵：吉川英治の小説では岡山県大原町の生まれとされているが、実は高砂市米田町で生まれ幼時に大原町に養子に出された説が有力。九州在住の宮本家の家系図では米田にある赤松家から田原家が出て、田原家貞の次男が武蔵で天正年間に新免宮本無二之助の養子になったと記載あり。戦国時代の豪族赤松氏は足利幕府から米田の地を拝領し、その一族が田原家に改名した。五輪書にも武蔵自身が「生国播磨の武士」と述べている。加古川市にある武蔵の養子の伊織（甥：武蔵の兄の子）が再建した泊神社には、「我々は代々米田に住んでいた赤松家の一族の田原家と名乗り、武蔵が作州の新免家を継ぎ、自分がその養子になった」と記録している。「播州高砂は生誕の地」「作州大原は修練の地」「豊前小倉は大成の地」「肥後熊本は終焉の地」と言われている。

■京見山

＜女性委員会＞

●日 程：10月17日(土)

●参加者：La 安田 SLa 澤田(律) 香川 橋本(万) 田中(由) 中村
Lb 矢根 SLb 垣内 泉 島谷 徳本 苦瓜 村上

●行動記録：JR はりま勝原駅 9:10 発～登山口 9:15 発～京見山山頂(9:50 着)9:55 発～東見晴台(10:30 着)10:33 発～トンガリ山(10:55 着)11:00 発～白毛山(11:15 着)11:18 発～京見山(12:00 着)12:20 発～熊見下山口(13:00 着)～JR はりま勝原駅(13:10 着)

◆京見山

村上

朝6時のリーダーからのメールは、小雨決行。天気予報は午後3時過ぎまで雨予報です。

家でレインウェアを着用しIさんの車で、集合場所のJRはりま勝原駅に到着。9:00の集合時間までに参加者の増減が有り、参加メンバーは13名です。

出発して住宅地をぬける時に金木犀の香りが漂っていて秋を感じます。

駅から5分ほどで京見登山口に着きます。ここから直登で京見山山頂に行くコースを登るのは初めてだったので、ドキドキでしたが皆さんについて無事京見山(215.9メートル)登頂。低山なので雨の中でも展望もまずまずです。雨の中、立ったまま少しの休憩を取り、皆さん意気揚々と次の山へ。泣き坂峠を越えて見晴台へ10時半頃到着。眼下に広畑の住宅街を眺めながら次のトンガリ山へ。そして電波塔のある白毛山に無事辿り着きました。





雨は朝より強くなっていましたが皆さん元気で京見山へと折り返します。鹿の鳴き声を近くで聴きながら12時に京見山山頂に到着。

古いテントで作られた休憩場所で、立ったままおにぎりを食べ昼休憩です。後は下山するばかりです。

5分位歩いた所で登山道の近くに3匹の鹿が逃げるでもなく佇んでいました。京見山登

山では、いつも山のどこかで鹿を見えています。13時熊見登山口に到着。

皆でお楽しみのベーカリーカフェに行き、ゆっくりとコーヒーとパンをいただきました。

雨の中でも元気に楽しく皆さんと、予定のコースを歩くことが出来て良かったです。

■かんざし岩

<アルプ>

●日 程：10月24日(土)

●参加者：L竹内 SL尾内 岡田 河崎 兼澤

●行動記録：中池 8:45 発～前衛岩(9:10 着・ロープワーク)11:02 発～かんざし岩(11:25 着)11:47 発～桶居山(12:22 着)12:30 発～中池(13:41 着)

◆初めてのATCガイド

河崎

ずいぶん以前のことである。初冬の北アルプス。猛烈な風雪にやられ、凍てついた急峻な岩稜の下降に窮していた折り、偶然通りかかった単独の老人に、エイト環とカラビナ、簡易ハーネスを用いた懸垂下降で難所から救ってもらったことがある。以来、山をやる上では習得しておきたい技術の一つだと思い、今回の訓練に参加するはこびとなった。

トレーニングの場は、桶居山西方に位置する通称かんざし岩の直下にある前衛岩。急傾斜の一枚岩のいたるところに残置支点が見てとれるそこは、多くのクライマーたちの研鑽の痕跡がうかがい知れるクライミングゲレンデだ。その下で参加者全員まずはハーネスを装着し、ウエストベルト中央にあるビレイループにスリングを通す。ヘルメットを頭にかぶり全員の準備が整うと、リーダーである竹内さんが颯爽と岩場へ駆け登り、ルートを構築する。



10メートルほど上のハンガーボルトを支点にカラビナを掛け、そこにメインロープを通しエイトノットで結ぶ。続いて中間支点を取りトラバース用のロープのセットも完了すると、一人ひとり支点の近くまで登り、リーダーのフォローのもとロープスリングをメインロープに4回程度巻きつける。そして巻きはじめのループに末端ループを通し下方向に引き締めると、そこにカラビナを通しハーネスに接続する。巻き付けた箇所を握ればロックが外れて下降への移動が容易となり、手を放せば末端箇所にも荷重がかかり自然とロックされ墜落から免れる。いわゆるクレイムハイストと呼ばれるシステムである。

さらに次のふたつの方法のうちどちらかをこれに加える。

ひとつはカラビナを用いたムンターヒッチによる下降。もうひとつはATCガイド（下降器）と呼ばれるビレイデバイスを使った下降である。ATCガイドはエイト環に変わる下降器で、メ



インロープを取り込み滑車を滑らせる要領で下降したり、また墜落抑止のブレーキとしての役割を果たす。主として自分は一番の関心事であったこのATCガイドを多用した。

これもカラビナを介しハーネスに接続するが、クレイムハリストと併せこのふたつの生命線に繋がれてみな安全に懸垂下降をとり行った。

他にもいくつかのロープワーク、ホールドの立ち方やビレイ（確保）などを学び大いに知識欲を刺激された。生産性のある1日であった。

今回のトレーニングではじめて使用したATCガイドを中心とした懸垂下降は、岩登りをはじめとする多様なクライミング技術の基礎というべきものである。

さらにテクニカルな要素の多い登攀を目指すため、今後より一層の学習の機会を得たいと思う。

このたびのトレーニングでご指導いただいた竹内さん、ご一緒くださったみなさん本当にありがとうございました。次の機会もどうかよろしくお願いします。

■千町小屋合宿

●日 程：10月24日(土)～25日(日)

●参加者：[土曜トレ班] L 佐々木 SL 和田 上田 大谷

[学習会班] L 砂川(延) SL 平井 藤原(千) 阿久津 天野 生永 小田 佐野 春本
福田(正) 福原

●行動記録：(24日) JR 宝殿駅 9:00－姫路西 SA10:00－道の駅いちのみや 11:00－千町小屋
(12:00 着)

(25日) 千町小屋 7:55～笠杉山登山口 8:00～杉山登山口(どうどう橋) 8:30～国
境尾根分岐点 9:10～杉山分岐 9:45～杉山 9:55～国境尾根分岐点 10:45
～大タワ峠 11:20～笠杉山 12:10～千町小屋 13:50

◆学習会終了山行（杉山、笠杉山登山）

砂川(延)

今年の終了山行はコロナ禍の影響から、従来の大台ヶ原、大普賢岳への終了山行が例年利用していた和佐又小屋の閉鎖もあり実現しませんでした。千町小屋合宿を伴った終了山行・杉山、笠杉山登山が、今後の終了山行を行うのに良い山々の一つとなりました。

千町小屋を出発して林道を少し上がった三差路に登山標識が「笠杉山登山口」と「杉山登山口」があり、少し古びて読みづらいが杉山方面をさしている方向へ、新しい林道に向かって歩き始めるが、だれも歩いている形跡が見えない。

取りあえず、途中何度か分岐路があるが上の林道を目指して歩き、林道のガードレール下にたどり着いた。林道はさらに続いているが、取りあえず林道に上がるべく山肌に取り付きガードレールの隙間から林道に上がる。

この隙間に林道下に向かって「千町小屋」方面の標識があったので、この上がってきた林道で間違いは無かったようだ。この区間が杉山に登る上で、今回の登山の一番不明瞭で不安なルートだった。

上がったところが「どうどう橋」で、その先に「杉山登山口」の標識があった。ここから「国境尾根」に上がるが、途中に展望デッキがあって、岩塊流を眺めるようになっていたが、苔むした岩々と森林の日陰で良く分からない。

すぐ上に「クジラ岩」があったはずだったが、歩くルート上には見る事が無かったのは少し残念な気持ちで国境尾根を目指して歩く。

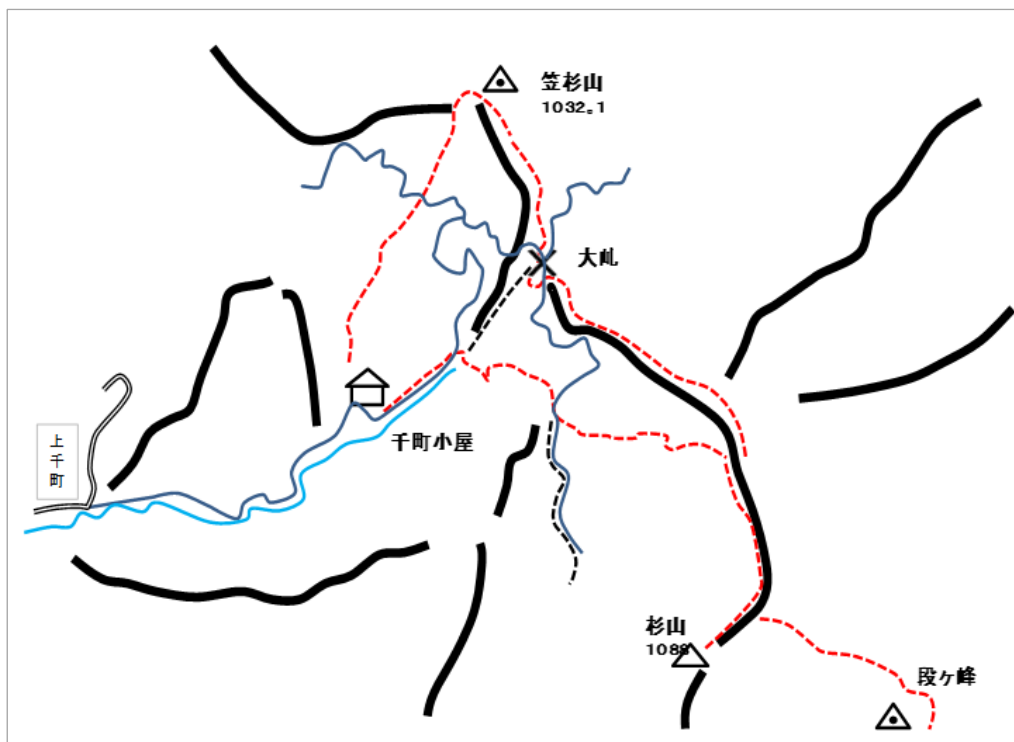
国境尾根分岐点にたどり着くと眼下に但馬の山々が見えている。ここからは杉山、段が峰に向かって山上庭園と呼ばれているなだらかな尾根上を杉山に向かって歩く。今日は雲一つなく、熱くなく寒く無く素晴らしい景色とお天気に恵まれ最高の登山日和を味わった。

段が峰と杉山分岐から杉山に上がる。杉山からの眺めも何遮るもの無く段が峰の山肌の紅葉が素晴らしい景色を提供している。しばらく休憩して景色を眺めていたが、この先、段が峰が目前に見えているのだが、地形図で確認すると百四五十メートルのアップダウンがある。後折り返して、笠杉山の登攀があること、ここまでの気持ち良い歩きを失いたくないことなど考え断念することにした。

折り返して大札幌の地藏堂から笠杉山の頂上を目指す。頂上で昼食後、千町小屋へは谷筋の林道を下り終了山行の終了とする。



【概念図】



◆千町小屋で秋を過ごす

上田

ちょうど一年ぶりの千町小屋合宿、御着のスギ薬局でひろってもらって、一ノ宮のマックスバリュウーで買出しをして千町小屋に向かう。コロナのためにまほろばの湯も休業、峠を越えると山里は秋の気配、いつもより沈んだ感じに見える。

小屋開けをして薪ストーブに火が入った頃に「学習会終了山行」のメンバー11人が着く。

小屋周辺の地形を利用してテント設営の練習、入口は風下に・天井部の結び・ポールは押す・ペグと張綱の扱い・テントやポールの袋はインナーポケットに・などなど。



次は立木を利用し、細引やスリングを使ってツェルトを張る。最後は斜面を使ってロープワーク。実際の山行でツェルトを使ったりロープを使ったりはほとんどないのだが、それでいいんだ。使わないから練習しなくてもいいのではない、山ではいつ、何が起こるか分からない、起こってからでは間に合わない。

夕食はコロナ対策の配置で椅子が並ぶ、宍粟肉のステーキやサラダ・スープなどでおいしく腹いっぱいになった。食事のあとはプロジェクターを使ってテーピングの練習、私もすねに傷を持つ身だったので真剣に聞く。最後はこれまでの夏山集中山行などの写真を見て、それぞれ思い思いの場所で眠りにつく。

25日、今日もさわやかな秋空が広がる。杉山・段ヶ峰・笠杉山を周回する学習会組が出発した後私たち「留守居組」は、コーヒーを飲んだり一休みした後、小屋周辺の散策、森林浴にでる。行先は決めていなかったのだが、千町岩塊流のくじら石まで行くことにする。舗装されたところや工事中の林道をのんびりと歩く、日陰は寒いくらいで陽の当たるところがちょうどいいくらい、くじら石から引返す。どうどう橋の100mほど先になにやら真新しい建物が見える、行ってみるときれいなバイオトイレだった。何人が使うかな？長尾新池の駐車場に作ってくれたらありがたいのに！！

帰りに捕獲器のそばを通る、大きな捕獲器には何も入ってなかったが、後にあった小さな捕獲器に何かが入っている、たぬきかと思ったが、顔が白くハクビシンらしい、だいぶ弱っていかわいそうだったが逃がしてやるわけにもいかない。

何ヶ所もいたんだところのあるユニバーサル道路を通って千町小屋に帰る、食事をしてお茶を飲んで、ぼちぼち掃除をしてと思った頃に学習会組が帰ってきた。

「来た時よりきれいに」と全館掃除をして帰路につく。コロナと思わぬ故障でどこにも行けなかったが二日間いい天気秋を満喫することができた。

■紅山～きすみの見晴らしの森

<女性委員会>

- 日 程：10月29日(木)
- 参加者：La 三木(悦) SLa 澤田(律) 泉 生永 香川 黒本 松浦
Lb 垣内 SLb 木村 笹木 佐野 田羅間 田中(由)
Lc 瀧原 SLc 待場 橋本(万) 福原 村上 矢根
- 行動記録：鴨池公園駐車場 8:50 発～福甸 9:05 発～西紅山(9:35 着)9:40 発～紅山(9:50 着)
10:00 発～惣山(10:40 着)10:50 発～展望デッキ(10:55 着)11:05 発～中央林間広
場(11:20 着)11:25 発～岩倉入口 11:30 発～鴨池(11:50 着)

◆小野アルプス(紅山、惣山)

橋本(万)

朝の通勤ラッシュ中、山陽高速道を越え小野市に入ると朝もやのかかる幻想的な道になり、8時45分集合場所鴨池公園駐車場に到着した。

お昼 12 時に入る予定のピザ店を横目に福甸から紅山を目指す。途中、男岩、女岩と言われる夫婦岩スポットからパワーをもらい紅山頂上から下をのぞき込む。今日は下から登るミッションはなく、胸をなでおろす。権現ダム～平荘湖の展望が広がる。

紅山を降りると今度は惣山に向かってつづら折れの丸太階段を登りきる。198.9mの惣山登頂。少し行った展望デッキからは360度パノラマの素晴らしい眺めだった。

下山コースは難なくスムーズに降りられ目指すピザ店入店を果たした。店内、駐車場は他客でいっぱいだったが総勢19名の私達は貸し切り状態…グループ毎のメニュー注文でピザ2枚、ワッフル1枚、飲み物で大満足のランチであった。

予約を取るのもさることながらコース設定してくださったリーダーには頭が下がる思いだ。これぞ都会派山ガールのおしゃれなハイキング！でした。

三木リーダーはじめ山ガールの皆さんありがとうございました。



【活動データ】



■高御位山裏コース・狸岩から松の木谷池へ

- 日 程：11月3日(火・祝)
- 参加者：La 砂川(延) SLa 平井 泉 小田 黒本 佐野 島谷 徳本 春本 福原 松井
Lb 森本 SLb 澤田(律) 天野 貝塚(陽) 兼澤 笹木 島本 高島 田中(重) 西川 待場 吉村
- 行動記録：成井登山口 10:25 発～狸岩(10:50 着)11:00 発～露岩(11:30 着)11:40 発～松の木谷池(12:45 着)13:25 発～途中休憩(14:05 着)14:15 発～高御位山稜線出合い(14:25 着)14:35 発～高御位山(15:05 着)15:20 発～成井登山口(15:55 着・ストレッチ)

◆高御位山タヌキ岩～松の木谷コースを歩いて

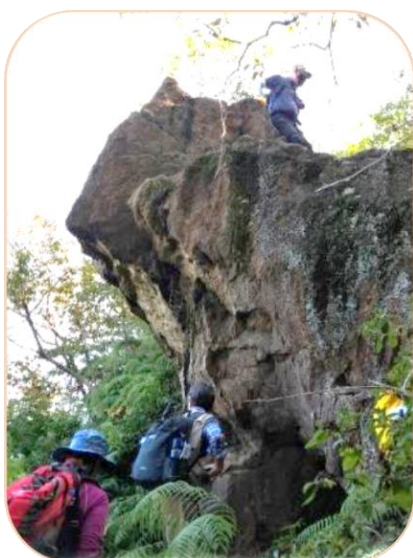
小田

11月3日は「晴れの特異日」と言われる通りに前日の雨も上がり雲一つ無い秋晴れに恵まれ登山日和となりました。

集合場所となっていた成井駐車場は、特に休日は家族連れも多くて満車になるので参加者22名分駐車できるか心配していましたが、リーダーから「別の場所を確保した」旨連絡があったので安心しました。

昨日の雨で道もぬかるみがあったり、藪漕ぎになるのではないかと思ひ足元にはスパッツをつけ、ストレッチをして「タヌキ岩」を目指して出発です。石段の手前を右に曲がり竹藪を抜けて水路のある山道を登って行く。

沢を渡り左手に少し進むと高い大きな迫力ある「タヌキ岩」があった。タヌキの形には見えなかった。カエルの顔に見える？ペンギン？洞穴があったので、そこをタヌキが巣穴にしていたからかなあ？夫々捉え方が違った。タヌキ岩の上に登っている方も居られたが、樹木に阻まれて見晴らしは良くなかったようだ。



木漏れ日が差す自然林を抜けると大きな一枚岩が現れた。振り返ると右手には山頂が見え、眼下には赤、白、ピンクの花の広いコスモス畑が見えた。いつも見ている景色とはまた違ってなかなか素晴らしかった。

縦走路に出る手前の北へ続く尾根を歩き松の木谷池へ目指す。誰にも会わない静かな尾根歩きが楽しめた。目の前に松の木谷池が現れる。ここからは滑りやすい急坂になり、ちょっと心配になった。ロープがついていたが細く切れかかっていたので、リーダーがロープを張ってくれた。そのロープにつかまって滑りそうになりながらゆっくり慎重に下りた。後ろの方で誰か滑って転んだようだ。

後は平坦な道になったが、足元の切株やツルに引っか

けて、転ばないように注意が必要で気が抜けなかった。

松の木谷池でやっと昼食です。温かいコーヒーを入れてもらって美味しかったです。

さて、今日一番の関門です。ほぼ垂直に登るように見える急登です。「1、2、の3」と声を掛け力を入れてよじ登りました。高御位山頂を目指して尾根を進みます。

いつも歩いている縦走路が見えるとみんなの足取りが軽く元気になりました。最後のアップダウンは、道端にそっと咲いていた秋の可愛いお花（リンドウ、アキノキリンソウ、コウヤボウキ）やキラキラ光る播磨灘の風景に心癒されながら、のんびりと気持ちよく歩いて楽しい一日になりました。有難うございました。



【 A班 】



【 B班 】

◆高御位山裏コースに参加して

吉村

前日の雨で天候が懸念されたが雨の心配は無し、成井登山口には満車の気配もあり早めに到着する。本日の参加者は多数で2班でストレッチの後、10時過ぎに出発。

狸岩は木立で見当の悪い谷筋を進む。狸岩とは初対面であったが「ひきがえる」の様相を呈していた。

露岩付近から「いなみ野」が美しく広がっていた。松の木谷池への下りは急な所があり足元に注意しながら進む。池の水は抜いてあり山肌が露出して小川となっていた。

13時頃池の左岸にてレーションの後、高御位山稜線出会いを目指す。

稜線への登りは急で、古びたロープが所々やせ細っていた。

稜線付近では、姫路市内が見え隠れしながら進み、見晴らしは申し分なし。見覚えのある稜線へ出る。（清掃登山の分岐付近）

ここからは歩きなれた道だ。15時頃、高御位山頂へ岩肌が逆光で美しく写真に収める。

成井登山口へは階段コースにて16時前に無事下山する。

リーダーならびに参加者の皆様に感謝。ありがとうございました。

最後に、自然の素晴らしさに、コロナウイルスも早く降参してくれることを願う山行でした。